

平成30年度進行管理・評価シート
和歌山市歴史的風致維持向上計画（平成30年3月26日認定）
（最終変更令和元年7月16日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)		
1 歴史的風致維持向上計画の実施体制	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 都市計画	2
2 和歌山市景観計画	3
3 和歌山市屋外広告物条例	4
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 文化財の保存・修復と活用	5
2 市域の文化財調査	6
3 歴史的建造物等の公開・活用	7
4 和歌山城の整備・活用	8
5 歴史的風致維持向上支援法人への活動支援	9
6 次世代の担い手育成事業	10
7 歴史・文化に関する意識醸成・担い手拡大のソフト事業	11
8 歴史・文化に着目したまちづくり支援事業	12
9 和歌祭の祭礼衣装等の新調・修繕	13
10 無形民俗文化財の継承	14
11 街なみ調査(整備方針・事業計画策定)	15
12 公園整備(御手洗池公園、沖見の里公園)	16
13 遊歩道整備(和歌浦、高津子山、浪早崎)	17
14 駐車場整備	18
15 広場整備	19
16 「和歌の浦」ガイダンス施設整備	20
17 博物館歴史展示・講座の実施	21
18 和歌の浦の文化財説明板・まち歩き案内板設置	22
19 日本遺産の魅力発信	23
20 歴史・文化のプロモーション事業	24
21 遺跡の普及・啓発	25
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の保存に関する取り組み	26
2 文化財の活用に関する取り組み	27
3 埋蔵文化財の取扱いに関する取り組み	28
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		
1 和歌山市の歴史まちづくりに関する報道	29
⑥その他(効果等)(様式1-6)		
1 歴史的風致の情報発信と認識向上	30
□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	31

評価軸①-1
組織体制

項目	評価対象年度	平成30年度
		現在の状況
歴史的風致維持向上計画の実施体制		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 本計画の推進体制については、都市再生課と文化振興課を事務局とした庁内推進体制を設置するとともに、歴史まちづくり法第11条の規定に基づく「和歌山市歴史的風致維持向上計画推進協議会」において計画の推進や変更等の連絡・調整・協議等を行い、事業の推進を図る。
 また、必要に応じて、本市の都市計画や景観、文化財保護等に関する審議会、並びに文化財や歴史的建造物の所有者等と連絡調整を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

学識経験者、歴史的風致形成建造物所有者、歴史的風致維持向上支援法人、行政機関で構成する和歌山市歴史的風致維持向上計画推進協議会等を開催し、計画推進に関しての連絡調整や意見を聞くことができた。
 ●和歌山市歴史的風致維持向上計画推進協議会 : 2回開催
 ●和歌山市歴史的風致維持向上計画推進庁内委員会 : 2回開催
 ●和歌山市文化財保護審議会への意見聴取 : 1回

進捗状況 ※計画年次との対応

進捗状況	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

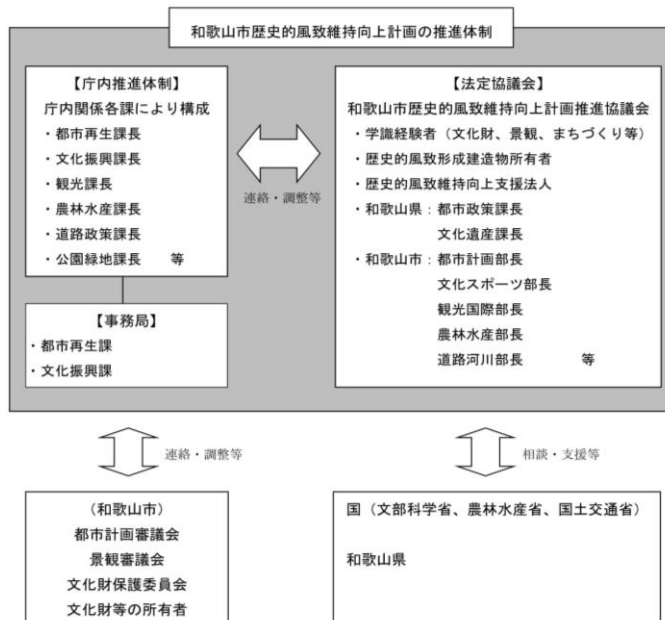
第2回 和歌山市歴史的風致維持向上計画推進協議会

開催日 : 平成31年2月15日

議題 : 和歌山市歴史的風致維持向上計画の進行管理・評価について
 和歌山市歴史的風致維持向上計画第1回変更について



第2回和歌山市歴史的風致維持向上計画推進協議会開催状況



評価軸②-1
重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	平成30年度
	現在の状況	
都市計画	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

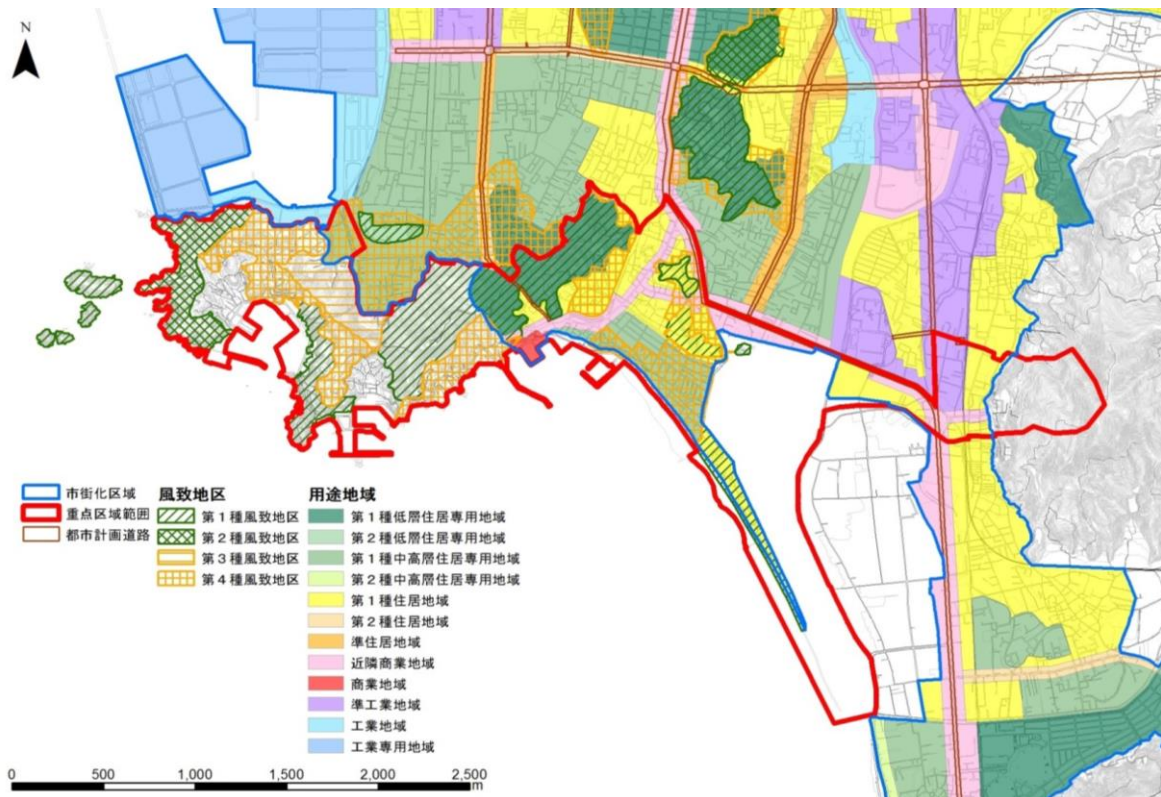
計画に記載している内容
 本市は市域全域が都市計画区域になっており、重点区域は、市街化区域と市街化調整区域にまたがっている。
 また、都市の風致を維持するために、優れた景勝地、樹林地、水辺地等の自然環境やこれら自然環境と調和した良好な住環境が形成されている地区の維持を目的に風致地区を指定しており、「和歌浦風致地区」「新和歌浦雑賀崎風致地区」の2地区を指定している。
 引き続きこれらの地域地区等を運用し、良好な景観形成を推進するものとする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

風致地区は、都市の風致を維持するために、優れた景勝地、樹林地、水辺地などの自然環境やこれら自然環境と調和した良好な住環境が形成されている地区の維持を目的に、都市計画法により定められている。
 平成30年度 風致地区内行為許可件数 和歌浦風致地区 : 3件
 新和歌浦雑賀崎風致地区 : 11件
 許可制度により、良好な景観形成に寄与している。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	平成26年4月1日に「和歌山市風致地区内における建築等の規制に関する条例」を施行した。条例に基づき、風致地区内における建築等の規制をし、良好な景観形成を推進する。

状況を示す写真や資料等



都市計画総括図と重点区域の範囲

評価軸②-2

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	平成30年度
		現在の状況
和歌山市景観計画		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容

和歌山市景観計画により、市域全域を景観計画区域と定め、良好な景観の形成に関する方針や建築物等の行為の制限に関する事項等を定めている。
 その上で、市を象徴する景観として市民の関心も高く、市の顔となる景観上重要な地区を景観計画における「景観重点地区」として、規制誘導方策等を含めた積極的な景観形成を図っており、その一つとして「和歌の浦景観重点地区」を指定し、地区固有の景観の特性に即した景観形成の目標及び方針、さらにはきめ細かな建築物等の行為の制限に関する事項を定めている。
 これらはいずれも本計画の重点区域内に位置していることから、引き続き「景観重点地区」として、行為の制限による良好な景観形成を推進するものとする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

和歌の浦景観重点地区は、湾・島しょといった独特の地形・自然の中で、人々の営みが調和して創り育ててきた眺望景観を未来に継承することを目標としている。
 平成30年度 景観計画区域内における行為の届出件数 和歌の浦景観重点地区 : 3件
 届出制度により、良好な景観形成に寄与している。

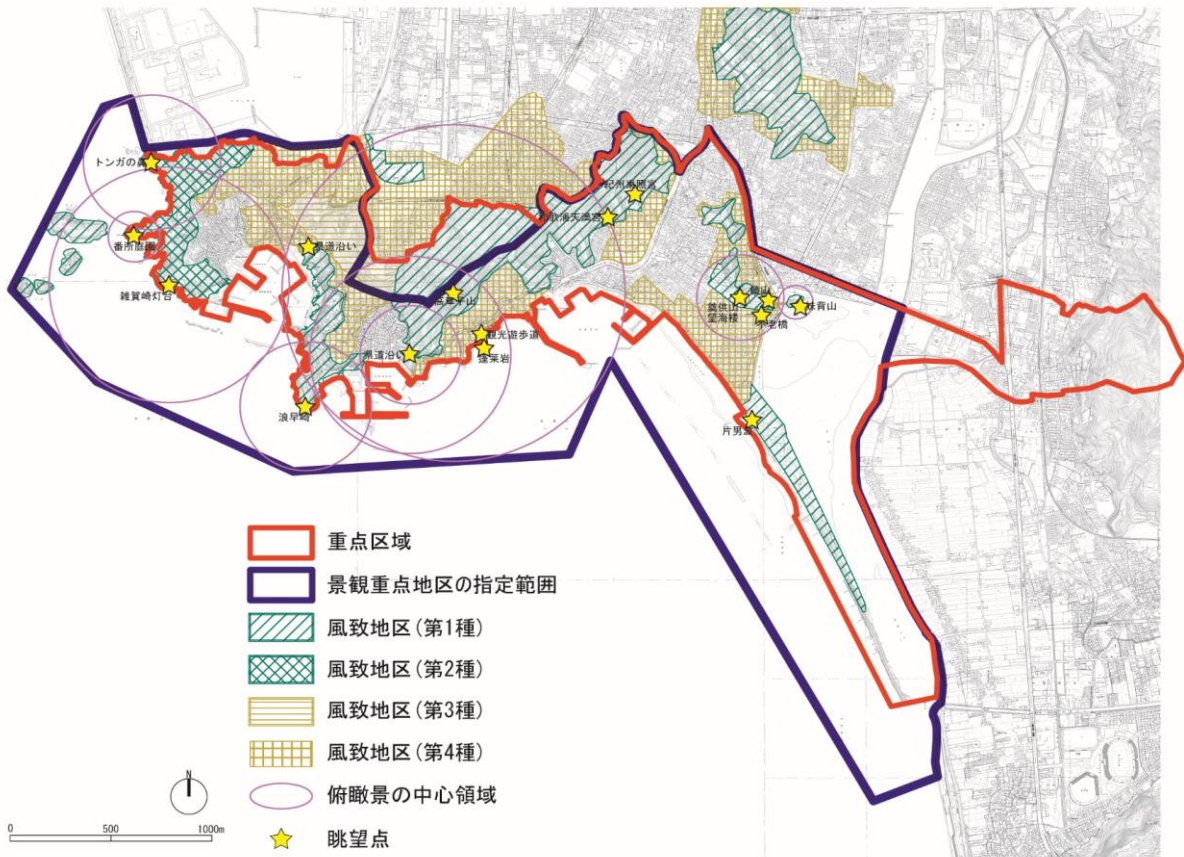
進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

平成23年に和歌山市景観条例を制定、和歌山市景観計画を策定した。一定規模以上の建築行為や開発行為などを行う際、届出が必要であり、景観計画に定められた景観形成基準に適合する必要がある。

状況を示す写真や資料等



景観重点地区区域図

評価軸②-3

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	平成30年度
	現在の状況	
和歌山市屋外広告物条例		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 和歌山市屋外広告物条例により、市域全域を対象として運用を図っており、掲出区域に関する規制(許可地域、禁止地域の設定)と、掲出物件に関する規制を行っている。
 重点区域のうち、和歌浦・田野・雑賀崎においては、大半が風致地区の指定によって同条例の禁止地域に指定されており、良好な景観を形成し又は風致を維持するために、広告物の表示又は掲出物件の設置を禁止している。また、紀三井寺及びその周辺の区域についても大半が禁止地域に指定されている。
 これらの屋外広告物の誘導の取り組みを継続し、良好な景観形成を推進するものとする。

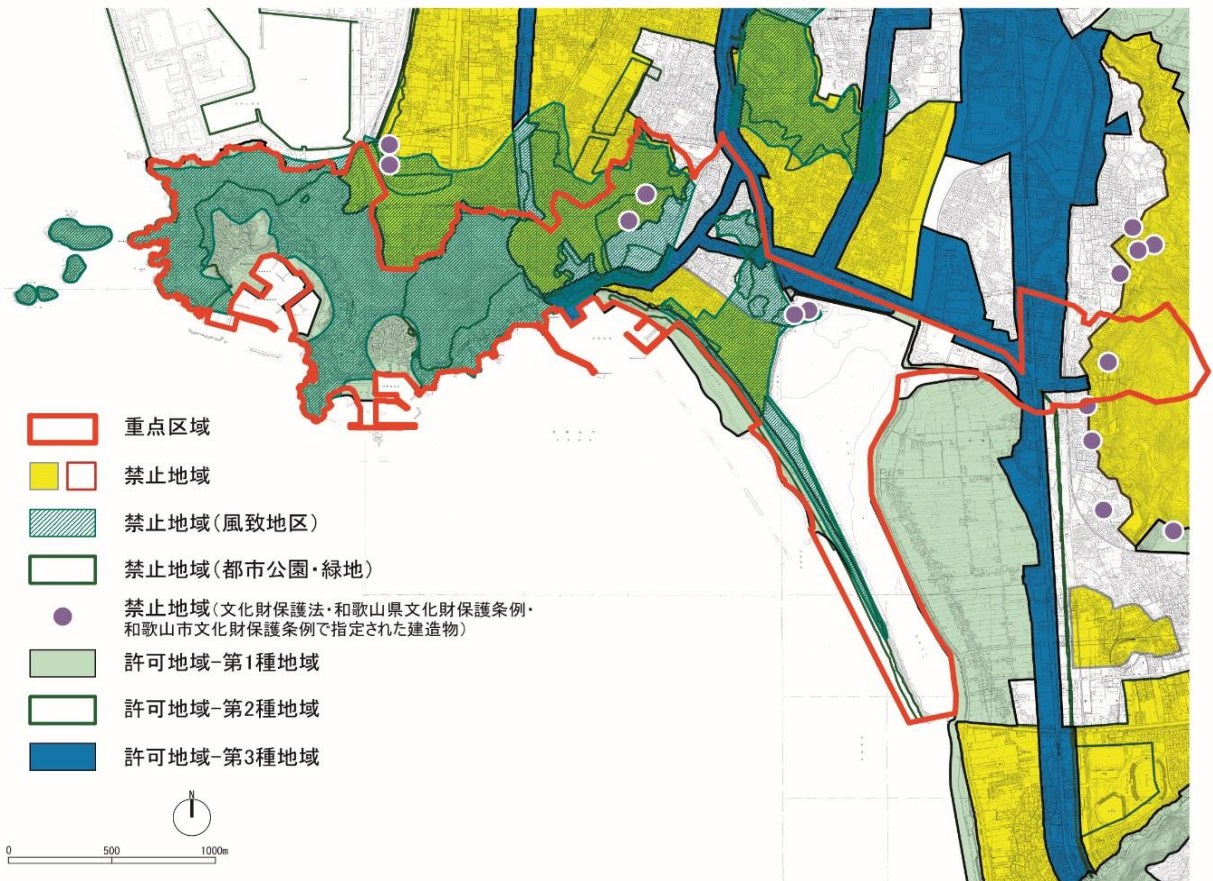
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

屋外広告物を掲出する場合には、一部の適用除外広告物を除き、あらかじめ、許可を受ける必要がある。
 平成30年度 屋外広告物許可件数 : 8件
 許可制度により、良好な景観形成に寄与している。

進捗状況 ※計画年次との対応

進捗状況	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	屋外広告物及び屋外広告業について必要な規制を行い、もって良好な景観を形成し、若しくは風致を維持し、又は公衆に対する危害を防止することを目的として、平成8年12月に和歌山市屋外広告物条例を制定した。

状況を示す写真や資料等



屋外広告物条例指定区域図

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
文化財の保存・修復と活用		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和9年度

支援事業名 重要文化財修理、防災事業
 史跡等総合活用整備事業
 県文化財保護費補助事業
 市単独事業

計画に記載している内容 長年の風雨等により劣化、破損が見られる指定文化財等の適切な保存修復を図り整備を行う。特に、屋外の文化財建造物は劣化が著しいため、保存処理を行ったうえで、活用を図る。
 その際、文化財建造物の整備・修復過程など文化財の通常見られない面も公開に努めるとともに、整備後の維持管理や活用についても市民や関連団体等の協力を得られるよう働きかける。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・指定文化財修復補助事業：2件(国名勝養翠園保存修理補助事業、国名勝和歌の浦(不老橋)修復事業)
 ・指定文化財災害復旧補助事業：国指定建造物1件・史跡2件・名勝5件、県指定建造物2件・史跡1件・天然記念物1件、市指定建造物1件
 ・指定文化財管理補助事業：国指定建造物2件(天満神社管理補助事業、阿弥陀寺管理補助事業)
 指定文化財等の保存修理について、和歌山県及び和歌山市が適切に実施、または所有者等に適切な指導を行うことにより、指定文化財等の保存・活用が促進された。

進捗状況 ※計画年次との対応

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	災害等で文化財が突発的に被害を受けることがあるため、迅速に復旧に対応していく。

状況を示す写真や資料等



指定文化財修復事業
 名勝和歌の浦(不老橋)修復事業



平成30年9月台風21号文化財被害状況
 名勝和歌の浦(三断橋)

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
市域の文化財調査		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和9年度

支援事業名 市単独事業
埋蔵文化財緊急調査事業

計画に記載している内容
 市域には、歴史的価値がありながら文化財指定に至っていない建造物・民俗文化財・美術工芸品等が多数存在するため、それらを調査把握し、文化財指定や登録の候補を選定するとともに、未指定文化財を含めて市域の歴史遺産全体として普及啓発を行っていく。
 また、通常は地下に埋蔵されて実態が目に見えない埋蔵文化財(遺跡)については、確認調査により遺跡の実態を把握し、開発等から保護するための資料を作成する。
 合わせて、和歌道・御成道、熊野古道、葛城修験の道をはじめとした歴史の道についても、その重要性を明らかにし、共有していくため、文献や古地図等の歴史資料を基に調査究明する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・開発に伴う埋蔵文化財調査:確認調査50件、本発掘調査17件
 ・盗難被害防止のための社寺文化財調査実施
 ・「葛城修験」の同行調査、日本遺産認定申請推進
 開発に伴う埋蔵文化財調査の適切な実施により、遺跡の記録保存を行うことができた。また盗難被害防止、日本遺産認定推進等を含めた文化財の調査を行うことにより、未指定文化財の把握が促進された。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

開発、盗難や後継者不足等により危機にさらされる文化財の保護のため、調査による実態把握を進めるとともに、普及啓発に努めていく。

状況を示す写真や資料等

和歌山城跡第34次発掘調査 現地説明会資料

平成30年9月22日(土) 午後1時30分～3時
 和歌山産業交流館 文化次官一ツ瀬 文化財部課長
 公益財団法人 和歌山市文化財保護財団
 埋蔵文化財センター



はじめに
 調査地の位置する三の丸は本丸、二の丸を防御するための郭であり、二の丸との間は内堀で、城下町との間は土塁と外堀で囲われていました。現存する絵図(安政二年和歌山城下町絵図)からは藩の公的な施設や家臣の屋敷が建ち並んでいた様子がわかります(第2図)。

1. 調査の概要
 (1) 遺跡名: 和歌山城跡
 (2) 所在地: 和歌山市七番丁25
 (3) 調査期間: 平成29年6月～継続中
 (4) 調査面積: 約5050㎡



第1図 調査地位置図

和歌山城跡第34次発掘調査

文化財の盗難被害

まもろう！地域の文化財

近年日本各地で文化財へのイタズラ被害や盗難が多発しています。和歌山市内を含む県北部でもこの半年間で、約30名の仏像が盗難の被害にあっています。特に無住の寺院や神社、未指定の文化財が被害にあうケースが多く、被害の実態は不明であり、非常に深刻な問題となっています。

盗難被害の実情
 近年日本各地で地域の人々が大切に護ってきた文化財が盗難の被害にあっていることが数多く報告されています。特に、和歌山県南部では以前から文化財の盗難の報告が多数あったが、最近では和歌山市内を含む和歌山県北部でも多発しています。これらの盗難文化財は闇市場に流れていると考えられ、非常に深刻な問題となっています。



盗難防止への取り組み
 被害が著しい無住の寺院や神社の文化財は未指定品であることが多く、どのようなものであったかの写真すらないのが現状です。和歌山市では、盗難文化財の照会のために被害多発地域から記録調査を始めていくことを考えております。
 和歌山市では現在、和歌山県文化財指導委員会による定期的な文化財パトロールをおこなっていますが、もっとも有効な盗難防止対策は地域での監視体制であることから、文化財の所有者への注意喚起だけでなく、文化財へのイタズラ被害や盗難に対して地域で協力して被害を未然に防ぐための見守り等をしてくださるよう今後も、市報等で注意喚起をおこなって参りますので、ご協力くださいようお願い申し上げます。
 (担当 文化振興課 435-1194)

平成29年1月～8月の仏像盗難被害件数

市町村	被害件数
紀の川市	10
岩出市	15
和歌山市	5



和歌山市周辺での仏像盗難被害状況

文化財盗難被害防止のための啓発・社寺文化財調査

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
歴史的建造物等の公開・活用		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成18年度～令和9年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 指定文化財の建造物(旧中筋家住宅)を維持管理しながら、地域住民や来訪者等に公開し、長唄・三味線、琴の演奏会や茶道体験等の公開事業を実施する。
和歌山の歴史的建造物の映像記録の上映会を開催し、普及啓発を行う。
岡公園に移築された江戸時代の武家屋敷である旧大村家長屋門を公開・活用する(平成29年度～)。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・旧中筋家住宅公開事業:観覧者数11,037人、行事開催14件
 ・湊御殿公開事業:観覧者数6,391人、行事開催2件
 歴史的建造物等を公開・活用することにより、普及啓発や観光振興、地域振興に資することができた。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

公開活用の促進のため、地域や文化関係の団体等との連携を進めていく。

状況を示す写真や資料等



旧中筋家住宅公開事業
高積神社の獅子舞



旧中筋家住宅公開事業
「茶室へのお誘い」

評価軸③-4
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
和歌山城の整備・活用		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成29年度～令和8年度

支援事業名 史跡等総合活用整備事業
市単独事業

計画に記載している内容
 建造物の修繕や植栽の管理等、史跡の適切な維持管理、公開・活用を行う。
 段階的な整備計画に基づき、短期的な整備事業として、老朽化が進む建造物等を補修しながら、二の丸西部・西の丸を一体的に整備し、大名の生活文化を体感できる見所の整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

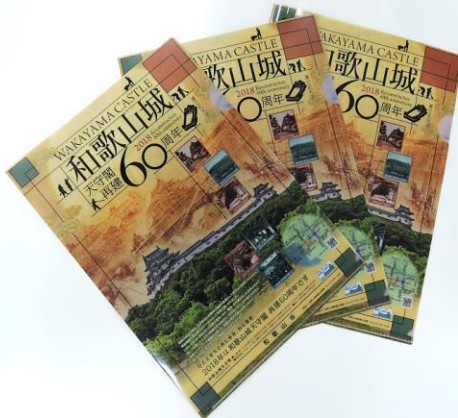
平成30年で現在の和歌山城天守閣は、昭和33年の再建から60周年を迎えた。それを記念して、西の丸広場・砂の丸広場を無料とし、様々なイベントが行われた。9月30日～10月8日には天守閣を無料開放し、8,361人が登閣した。石垣修理では、西の丸西側石垣修理工事を昨年に引き続き実施している。西の丸では発掘調査を行った。二の丸西部のこれまでの発掘の成果をまとめた報告書も刊行した。

これら発掘調査の学術的な成果が、今後の史跡の保存活用のための整備や普及啓発に寄与することが期待できる。

進捗状況 ※計画年次との対応
 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない
 災害等で突発的に文化財が被害を受けることがあるため、迅速に復旧に対応していく。
 公開活用について、一過性の記念行事だけでなく継続して進めていく。

状況を示す写真や資料等



和歌山城天守閣再建60周年記念ファイルの配布
(10/9～先着5000人)



ホンダスーパーカップも発売60周年を迎えたことを記念し、砂の丸でカブオーナーズミーディング実施(10/8開催時写真、4/22開催とあわせて計940台が参加)



西の丸能舞台跡での発掘調査の様子

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
歴史的風致維持向上支援法人への活動支援		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成30年度～令和9年度		
支援事業名	市単独事業 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)(令和2年度～令和3年度)		
計画に記載している内容	歴史・文化に携わる活動団体を歴史的風致維持向上支援法人に指定し、伝統文化の継承、施設の管理運営、市民及び行政との協働による情報発信等の各種事業に対する助成を実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
NPO法人和歌の浦自然・歴史・文化支援機構及びNPO法人和歌浦の2者の歴史的風致維持向上支援法人の指定式を平成30年11月3日開催の和歌山市歴史まちづくりシンポジウムにおいて行い、市民にPRすることができた。 歴史的風致維持向上支援法人と連携したイベントを開催するなど、官民連携のまちづくりを推進することができた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	歴史的風致維持向上支援法人の活動の支援だけでなく、市と協働で歴史的風致の維持向上に寄与するイベントの開催等を継続的に実施していく必要がある。		

状況を示す写真や資料等



歴史的風致維持向上支援法人指定式の様子



第1回 和歌の浦ガイダンス施設を考えるワークショップの様子
(NPO法人和歌の浦自然・歴史・文化支援機構と和歌山市の共同開催)

評価軸③-6
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
次世代の担い手育成事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成30年度～令和9年度		
支援事業名	市単独事業 文化遺産総合活用推進事業(地域文化遺産活性化事業) 伝統文化親子教室事業 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)(平成30年度～令和元年度)		
計画に記載している内容	伝統文化・民俗芸能を普及・啓発させていくために、その担い手として重要な次世代の子どもたちを対象とした事業を重点的に展開する。 市内の小中学生等を対象に、本計画策定を契機とした歴史まちづくりに関連するパンフレット(副読本)の製作・配布を行うとともに、各学校や教育委員会と連携して講師を招いた授業等を実施する。 市内の歴史的風致維持・向上を担う活動団体(和歌祭保存会、団七踊保存会、木ノ本獅子舞保存会)等と連携し、子どもたちと民俗芸能の内容・歴史等を学ぶワークショップ等を実施する。 子どもたちが、親とともに伝統文化・民俗芸能に親しみ、修得できるよう親子教室を開催する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成30年12月17日、重点区域内の和歌浦小学校6年1組の児童34名を対象に「和歌浦の未来を考えるワークショップ」を開催した。また、歴史まちづくり計画の子ども向けパンフレットを作成・配布し、市内全域の歴史的風致について周知・啓発を行った。 子どもたちが歴史的風致に触れるきっかけとなったことで、将来担い手となることを期待する。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	市内の他の小学校に子ども向けパンフレットを配布するとともに、定期的・継続的に歴史まちづくりに関する授業などを実施する。		

状況を示す写真や資料等



和歌浦小学校でのワークショップの様子



子ども向けパンフレット(抜粋)



和歌浦小学校での和歌祭ワークショップの様子

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
歴史・文化に関する意識醸成・担い手拡大のソフト事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和9年度

支援事業名 市単独事業
文化遺産総合活用推進事業(地域文化遺産活性化事業)
社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)(平成30年度～令和元年度)

計画に記載している内容 伝統文化を普及・啓発させていくために、とりわけ一般市民を対象として活動団体等による情報発信、各種団体と連携したイベント、普及・啓発や人材育成のソフト事業を行う。
文化財等に関わる調査の蓄積や新たな調査結果について積極的に公開し、歴史研究団体等と連携して市民と専門家等が意見交換するようなイベントを実施する。
歴史的風致の維持向上に携わる市民や活動団体等と連携して、歴史的風致の情報交換・情報発信等を行うイベントを開催する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

歴史まちづくりの取り組みをさらに加速させるため、地域の魅力向上と次世代への継承をテーマとした和歌山市歴史まちづくりシンポジウムを平成30年11月3日に開催した。歴史まちづくりの重要性や和歌山市の歴史的風致について、広く市民に知ってもらう機会となった。
また、市民に和歌山市の歴史を普及啓発するために博物館研究紀要など調査研究成果の公開を行っている。

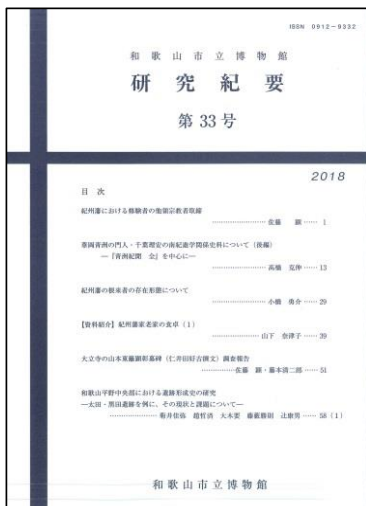
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



和歌山市歴史まちづくりシンポジウムの様子

左: 西村幸夫氏(神戸芸術工科大学教授)による基調講演 右: 専門家によるパネルディスカッション



調査・研究成果の公開
(博物館研究紀要)

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
歴史・文化に着目したまちづくり支援事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成30年度～令和9年度		
支援事業名	市単独事業 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)(平成30年度～令和元年度)		
計画に記載している内容	これまで本市で取り組んできた景観まちづくりワークショップ等の取り組みも生かしながら、地域において歴史・文化等に着目したまちづくり活動を支援するため、ワークショップ等の取り組みを実施する。 各地域のまちづくりワークショップ等を通じて、歴史的風致の再発見、再認識を促すとともに、それらを生かした活動についての情報提供や支援を行う。 文化財保護活動や生業等の地域の活動団体による歴史・文化に着目した活動の支援を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成30年9月10日、重点区域内の和歌浦地区住民を対象としたまちづくり勉強会を開催し、ワークショップの参加者を募る。10月から定期的にワークショップを開催し、和歌浦の魅力を生かしたまちづくりの取組について話し合う。 第1回 平成30年10月31日 参加者34名、第2回 平成30年12月10日 参加者14名、 第3回 平成31年1月21日 参加者11名、第4回 平成31年2月21日 参加者25名			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	ワークショップを通して和歌浦地区で活動している各種団体や住民同士が連携を図るきっかけをつくるとともに、ワークショップ参加者の中から和歌浦での起業者や伝統文化の担い手を輩出する。		

状況を示す写真や資料等



和歌浦地区まちづくりワークショップの様子

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
和歌祭の祭礼衣装等の新調・修繕		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	平成30年度～令和3年度
支援事業名	文化遺産総合活用推進事業(地域文化遺産活性化事業)

計画に記載している内容	和歌祭本来の鮮やかさを復原するため、祭で使用する伝統的な祭礼用具や衣装等の新調・修繕を行う。
-------------	--

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

神輿担ぎ手衣装:25領新調
 祭礼衣装の新調・修繕を実施するにより、和歌祭開始400年(2022)に向けた機運を高めることにつながっている。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	祭礼用具・衣装の伝統的な意匠を改変することのないよう、有識者の監修のもとに新調・修繕を行っていく。

状況を示す写真や資料等



神輿担ぎ手衣装着用状況
(白張・白張青柄)



(白張)



(白張青柄)



(白張)傷み・汚れ部分
→10領新調



(白張青柄)色あせ部分
→15領新調

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況
無形民俗文化財の継承		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成20年度～令和9年度

支援事業名 市単独事業
文化遺産総合活用推進事業

計画に記載している内容 県指定、無形民俗文化財である木ノ本の獅子舞・団七踊について、保存会組織による無形民俗文化財の保持・継承事業に支援を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

木ノ本の獅子舞:10月20・21日、木本八幡宮例祭で木ノ本の獅子舞保存会により披露
 団七踊:8月14日、岡崎西熊野神社で岡崎団七踊り保存会により披露
 無形民俗文化財の保存団体に対し、継続的に支援を行うことにより、地域に根ざした無形民俗文化財の安定的な保持継承に寄与している。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	参加者の減少傾向に対応するため、小学校等への普及啓発に努めていく。
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



木ノ本の獅子舞



団七踊

評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
街なみ調査(整備方針・事業計画策定)		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容
 重点区域内において、紀州東照宮等の歴史的建造物を結ぶ主要なルートでもあり、民家等の歴史的建造物も残る和歌の浦、及び紀三井寺周辺の町並みを調査・把握するとともに、地域住民の意見等も反映しながら、修景整備のための整備方針、事業計画を策定する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

現地調査や、統計資料等による机上調査、地域住民のアンケート等を基に、道路美装化や、沿道建物の外観修景等の取組に関する「街なみ整備環境整備方針」及び「街なみ環境整備事業計画」を策定した。具体的な事業計画を策定したことにより、歴史的風致維持向上計画の推進に寄与する。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	「街なみ整備環境整備方針」及び「街なみ環境整備事業計画」に基づき、街なみ環境整備事業を推進する。
--	--

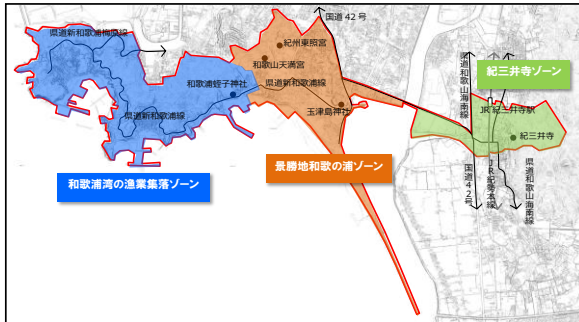
状況を示す写真や資料等

○和歌の浦地区全体の目標

『絶景の宝庫・和歌の浦』の歴史・景観を地域の誇りと活力につなげるまちづくり

- 万葉の時代からの歴史文化をゆっくりと感じる滞在型の観光地域づくり
- 地域住民と来訪者の交流、体験型観光行動の誘発を地域の価値、活力につなげる
- 歴史文化の認識、ふるさと意識を高め、伝統文化の維持継承を図る

○地域の特徴を踏まえ、歴史的風致のエリアごとに方針を整理



○各種事業に関する整備イメージの作成



歴史的建造物が今も残る明光商店街沿道等において、景観に配慮した舗装整備等により商店街の賑わいや歴史的景観を演出する。



紀三井寺参道へとつながる道路沿道等の店舗や住宅等において、修景基準に基づき、地域の歴史性を感じさせる街なみ景観の形成を行う。

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
公園整備(御手洗池公園、沖見の里公園)		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和4年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容 紀州東照宮参詣者の襖ぎの場であり、和歌浦天満神社と紀州東照宮とを結ぶ回遊動線上重要な位置にある御手洗池公園の歴史・景観等に配慮した整備(護岸修繕による修景整備、遊歩道の整備、水質浄化施設設置)を行う。
 漁業関係者が沖の様子を眺める場所であり、季節と潮の変わり目や天候の変化に敏感である漁業集落ならではの風習である「ハナフリ」という行事で、彼岸の中日に太陽が沈む際、夕陽の光が花びらのように散り輝くのを拝む沖見の里において、公園の整備(敷地造成、園路広場整備、サービス施設の整備等)を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

御手洗池公園については、平成30年度に一部の設計を実施する予定であったが、全体スケジュールを見直し、令和元年度に全体の設計を行い、令和2年度から令和4年度で工事を実施することとした。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



御手洗池公園



沖見の里公園用地

評価軸③-13

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
遊歩道整備(和歌浦、高津子山、浪早崎)		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和4年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容
 ○和歌浦観光遊歩道(約900m):遊歩道に設置している防護柵を景観に配慮したものに変更する。加えて、遊歩道内に照明を設置し、夜間の視認性を上げるとともに、情緒のある雰囲気 연출し夜間の散策スポットとなるよう整備する。
 ○高津子山遊歩道(約1,640m):高津子山の良好な眺望景観が望める場所として来訪者の散策を促すため、地権者等との調整のもと、散策路の整備を行う。
 ○浪早崎遊歩道(約500m):道標や夜間の視認性を確保する街灯、風景を眺めながら休憩できるベンチを設置するなど、良好な眺望景観が望める場所として来訪者の散策を促すため、散策路の整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

和歌浦観光遊歩道については、平成30年度に、設計及び工事完了する予定であったが、4月の豪雨及び9月の台風の被害により、着手に遅れが生じた。設計は完了しており、工事は令和元年度に完了する予定となった。遊歩道整備により歴史的風致エリアの回遊性の向上に寄与する。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

整備方針(和歌浦観光遊歩道のあり方)

- 1.和歌浦漁港や蓬萊岩・和歌の浦海岸、田野浦漁港などの地域資源をつなぎ、ひきたてるため、素材やデザインは誇張せず、統一したものとします。
- 2.「高質な空間・良好な景観」と「強固な構造」とのバランスがとれた整備とします。
- 3.費用対効果の視点をもった素材やデザインを取り入れた設計とします。

整備テーマ
 「まちなみ」「いとなみ」をひきたてる 万葉の路



整備イメージ



被災状況

評価軸③-14
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
駐車場整備		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容
 重点区域における沖見の里公園等へのアクセス環境を向上させるため、雑賀崎漁港内において駐車場を整備する。
 雑賀崎漁港では、究極の産地直産として「漁船からの直接販売」を実施しており、新鮮な魚介類を買い求める来訪者が多いことから、それらを受け入れる駐車場の整備を行う。

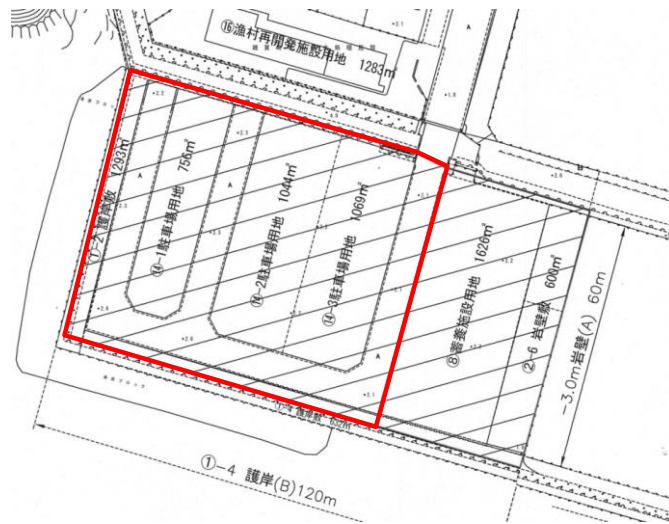
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成30年度に工事完了する予定であったが、9月の台風の被害により、追加の設計及び工事を要することとなった。設計は完了しており、工事は令和元年7月に完了する見込みである。来訪の起点となる駐車場を整備することで歴史的風致エリアの来訪者の増加に寄与する。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



整備面積: 約5,800㎡



被災状況

評価軸③-15

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
広場整備			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成30年度～令和3年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容
 漁業関係者が沖の様子を眺める場所であり、季節と潮の変わり目や天候の変化に敏感である漁業集落ならではの風習である「ハナフリ」という行事で、彼岸の中日に太陽が沈む際、夕陽の光が花びらのように散り輝くのを拝む雑賀崎灯台周辺、雑賀崎台場跡周辺において広場を整備する。
 ○雑賀崎灯台周辺眺望広場(面積:660㎡)
 雑賀崎灯台の隣接地において、沖の様子や漁船の様子、夕陽を眺める良好な眺望スポットとなる広場、市民や来訪者の憩いの空間となる広場を整備する。
 ○雑賀崎台場跡周辺広場(面積:190㎡)
 雑賀崎台場跡への県道からの入口部分に広場を設け、案内看板・ベンチ等を設置し、沖の様子や漁船の様子、夕陽を眺める良好な眺望スポットとなる遺跡公園と一体的に活用する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

雑賀崎灯台周辺眺望広場は、平成30年度に工事完了する予定であったが、着手の調整に思わぬ日数を要したため、若干の遅れが生じたが、令和元年8月に完了する見込みである。広場整備により、歴史的風致エリアの来訪者の増加、回遊性の向上に寄与する。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



雑賀崎灯台周辺眺望広場整備イメージ

評価軸③-16

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
「和歌の浦」ガイダンス施設整備		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和4年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容
 重点区域における歴史的風致、日本遺産の価値やその成り立ち等を情報発信する施設や、様々な市民団体の交流・情報発信の場となるガイダンス施設と、来訪の起点となる駐車場を整備する。
 <ガイダンス施設の導入機能(予定)>
 ・周辺の施設案内・和歌の浦内の資源、歴史的風致、日本遺産に関する情報展示(パネル、衣装、模型等)・住民や市民活動相互の交流・滞在・休憩

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

測量分筆登記、不動産鑑定完了。
 建物の整備に先立ち、駐車場を整備する早期効果発現を達成するため先行外構工事着手。
 また、歴史的風致維持向上支援法人NPO法人和歌の浦自然・歴史・文化支援機構と共同で「和歌の浦ガイダンス施設を考えるワークショップ」を2回開催し、来年度の基本設計に向けて、必要な機能などについて地域住民等の意見交換を行った。歴史的風致維持向上支援法人をはじめ地域住民と協働で施設整備を進めることは施設の愛着醸成に寄与する。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



第1回 和歌の浦ガイダンス施設を考えるワークショップの様子
 (NPO法人和歌の浦自然・歴史・文化支援機構と和歌山市の共同開催)



整備イメージ

評価軸③-17

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
博物館歴史展示・講座の実施		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和9年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容
 市立博物館において、和歌山城下町や和歌の浦、加太等和歌山市域の歴史に関する常設展示を行い、和歌山の魅力を伝えるとともに、夏と秋に開催する特別展において、和歌山に関する特定のテーマについて掘り下げた展示を行い、和歌山の歴史の奥深さを紹介する。
 あわせて、和歌山市域の歴史に関する歴史講座を開催し、和歌山の魅力を伝えるとともに、「史跡散歩」と題したまち歩きイベントを定期的に行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

和歌山の歴史的魅力を伝えるため、常設展示室内のコーナー展示において、「和歌祭」「和歌山城下の女性たち」「紀三井寺」「和歌の浦の絵画」など、和歌山城下町や和歌の浦などに関する資料を展示した。また春には、企画展「和歌の浦には名所がござる」(4～6月)、夏と秋には、それぞれ「和歌山城再発見！」(7～8月)「お殿様の宝箱—南葵文庫と紀州徳川家伝来の美術—」(9～10月)をテーマとした特別展を開催し、和歌山の歴史・文化の魅力を紹介した。さらに、和歌山市域の歴史に関する講座や講演会、まち歩きイベント「史跡散歩 和歌山城を歩く」(11月)などを開催し、和歌山市の歴史的風致について、その意義や魅力を知っていただく機会となった。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

和歌山の歴史・文化を広く普及啓発するために、一般向けから児童向け、専門的とそれぞれの対象に効果的な事業を行っていく。

状況を示す写真や資料等



常設展(コーナー展示)「紀三井寺」(6～8月)展示風景



春季企画展「和歌の浦には名所がござる」(4～6月)展示解説



夏季特別展「和歌山城再発見！」(7～8月)展示風景



秋季特別展「お殿様の宝箱—南葵文庫と紀州徳川家伝来の美術—」(9～10月)



歴史講座(5月)



史跡散歩「和歌山城を歩く」(11月)

評価軸③-18
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
和歌の浦の文化財説明板・まち歩き案内板設置		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成29年度～令和3年度		
支援事業名	日本遺産魅力発信推進事業 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)		
計画に記載している内容	重点区域内の日本遺産の文化財や観光地に、来訪者を誘導する為の案内板や文化財の魅力を紹介する説明板を設置する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
日本遺産観光案内板11基設置、文化財説明板9基設置 六義園(東京)・日本遺産「絶景の宝庫和歌の浦」説明パネル1基設置 日本遺産の現地の案内整備を進めることにより、来訪者や地域住民への文化財の魅力をわかりやすく発信することにつながっている。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		現地での案内をわかりやすくするために、周遊ルートに沿って効果的に案内板を配置していく。	

状況を示す写真や資料等



日本遺産「絶景の宝庫和歌の浦」文化財説明板設置



日本遺産「絶景の宝庫和歌の浦」観光案内板設置



日本遺産「絶景の宝庫和歌の浦」PR用パネル

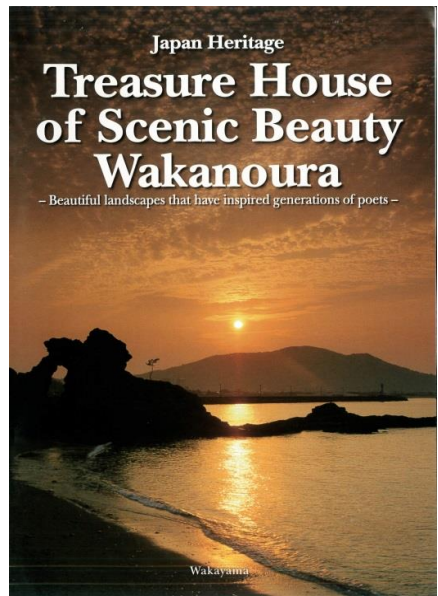
評価軸③-19
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
		項目	現在の状況
日本遺産の魅力発信			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	平成29年度～令和元年度		
支援事業名	日本遺産魅力発信推進事業		
計画に記載している内容	和歌の浦の持つ歴史的な価値に加え、歴史的建造物や自然景観を楽しめる魅力を発信すべく、様々な情報発信ツールを活用したPRを積極的に展開する。 ・和歌の浦の観光情報を網羅したホームページの作成と、PR動画の配信 ・誰もが理解できる分かりやすいガイドブック(日本語版・英語版)の制作と、国内外からの誘客促進のため文化・芸術に関心の高い人々が集まる拠点施設等へのガイドブックの配置		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
ガイドブック作成・多言語化・配布、ホームページ作成・多言語化、BS-TBS「日本遺産」放映、PR動画作成、雑誌「一個人」掲載、関西空港でのPRを実施した。 日本遺産の情報発信を促進することにより、来訪者や地域住民へ文化財の魅力をわかりやすく発信することにつながっている。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		和歌の浦の歴史・文化を効果的に情報発信するために、海外、国内、地元とそれぞれの対象に有効な発信媒体で対応していく。	

状況を示す写真や資料等



日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」ホームページ



日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」ガイドブック



関西国際空港インフォメーションボード
「絶景の宝庫和歌の浦」動画放映

評価軸③-20

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
歴史・文化のプロモーション事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成29年度～令和9年度		
支援事業名	市単独事業 文化遺産総合活用推進事業(地域文化遺産活性化事業) 日本遺産魅力発信推進事業(平成29年度～令和元年度)		
計画に記載している内容	市民のみならず、市外や外国人来訪者等をもターゲットに据えて、歴史的風致を含めた地域の魅力を発信し、訪問や回遊、滞在行動へとつなげる事業を展開する。 特に、和歌の浦においては、日本遺産認定を契機に、和歌の浦の魅力を伝える人材を発掘・育成する事業を展開するとともに、普及啓発のためのイベント等を集中的に開催する。 ・日本遺産ガイドを養成するための講習会の開催 ・地域のキーマンとなる人材の掘り起こし、専門家による研修会の開催 ・シンポジウム及び構成文化財をめぐるウォークイベントの開催 ・日本遺産のストーリー・構成文化財の展示ブースの設置		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
日本遺産ウォークイベント実施12/2:35人、日本遺産ガイド養成10/29・11/13・11/27・12/4:51人、日本遺産サポーター講習実施10/20・10/27・11/3・11/10:14人、日本遺産モニターツアー実施1/19・20:51人、日本遺産展示ブース設置、菓子木型活用体験2/14・3/29:17人、ニッポンたからものプロジェクト和歌山公演(和歌の浦)開催1/27:200人 日本遺産を中心とした歴史・文化のプロモーションの実施により、地域の魅力発信が促進された。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	和歌の浦の歴史・文化を効果的にプロモーションするために、海外、国内、地元とそれぞれの対象に有効な事業を行っていく。		

状況を示す写真や資料等



日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」



日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」モニターツアー



ニッポンたからものプロジェクト

評価軸③-21
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成30年度
	現在の状況	
遺跡の普及・啓発	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成25年度～令和9年度

支援事業名 地域の特徴ある埋蔵文化財活用事業

計画に記載している内容 市内各所の発掘調査が行われた遺跡について、説明板設置とパンフレット作成を行い、普及啓発を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

説明板設置: 太田・黒田遺跡周辺5基
 文化財マップ: 太田・黒田遺跡周辺1,000枚
 まちあるきに対応して文化財マップと現地説明板を連携させることにより、地下の遺跡と現在の地形や名所・見所を一体として、地域の魅力として発信することにつながった。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	広く普及啓発を進めるため、現地での案内板・説明板やパンフレットでの周遊ルートの説明などを分かりやすくしていく。
--	---

状況を示す写真や資料等



太田・黒田遺跡周辺文化財マップ



太田・黒田遺跡周辺文化財説明板

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成30年度
	現在の状況	
文化財の保存に関する取り組み	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 文化財の指定・登録への取り組みが進むよう、大学他の研究機関や民間団体とも連携し、調査成果の共有を図るとともに、その価値が認められたものについては、保存管理や活用が図られるよう、計画的に修理・整備、防災対策等を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

指定については、国重要文化財新指定：建造物1件があり、市指定文化財候補として美術工芸2件、民俗1件、文書書籍1件を選定した。指定文化財修復補助事業としては2件があり、災害復旧補助事業として、国指定建造物1件・史跡2件・名勝5件、県指定建造物2件・史跡1件・天然記念物1件、市指定建造物1件がある。他に指定文化財管理補助事業として、国指定建造物2件がある。また文化財防火デー、文化財保護協調週間の啓発に努め、災害時にはその都度文化財被害状況調査を行っている。
 指定文化財の選定、指定文化財等保存修理、盗難被害防止を含めた未指定文化財の調査を進めることにより、市域全体の文化財の把握、維持管理、保存活用に寄与した。

進捗状況 ※計画年次との対応

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	未指定文化財の調査を進めるとともに、指定文化財については所有者と連携し、文化財の適切な保護に努める。特に、文化財の適切な維持管理とともに防災・防犯の対策が進むよう指導・協力を努める。

状況を示す写真や資料等



阿弥陀寺本堂(旧紀伊藩台徳院霊屋)
 ・平成30年8月 国重要文化財(建造物)指定
 ・9月台風21号被害(雨樋・屋根瓦)
 →管理補助事業(小修理)



国重要文化財(建造物) 東照宮拝殿・石の間・本殿
 ・平成30年9月台風21号被害
 →修復整備事業



国名勝和歌の浦(三断橋)
 ・平成30年9月台風21号被害
 →修復整備事業



文化財消防訓練(旧中筋家住宅)

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	平成30年度
項目	現在の状況	
文化財の活用に関する取り組み	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 文化財の保存・活用を図るうえで、展示を行うための施設や、文化財を総合的に情報発信する拠点となる施設として、和歌山市立博物館、わかやま歴史館等があり、県施設(和歌山県立博物館等)とも連携し、市民への文化財への理解と保存又は活用に向けた気運の醸成を図る。
 文化財の情報を一覧できる文化財ポータルサイトの運用、各種講座・講演会・シンポジウム等の開催等による普及・啓発を図る。また将来の担い手である子どもたちに対し、学校教育・社会教育とも連携した歴史学習の展開を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

展示施設の活用では5施設の観覧者数合計276,415人(市立博物館:15,479人、わかやま歴史館:31,373人、和歌山城天守閣:212,135人、旧中筋家住宅:11,037人、湊御殿:6,391人)であり、その他に加太砲台弾薬・厠の修復整備・展示公開、日本遺産案内看板設置・展示ブース設営を行った。歴史学習の展開では、小学校への出張授業:4回、博物館小学校見学受入:59回があり、シンポジウム・講演会等では「第16回全国城跡等石垣整備調査研究会」等が行われた。
 展示施設を拠点として文化財の普及啓発を進めることにより、地域の歴史に根ざした魅力を発信することにつながった。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

文化財の活用において、様々な階層への働きかけとそれに応じた普及啓発の方法を適宜検討していく。
【目標値】
 展示施設の活用:5施設の観覧者数合計288千人(H34)
 歴史学習の展開:合計65回(H34)

状況を示す写真や資料等



市立博物館「和歌山城再発見！」展示風景



博物館体験事業(菓子木型体験)



雑賀小学校 日本遺産連携授業



和歌山市立博物館
 地域で学ぼう「博物館 おでかけ歴史講座」のご案内

和歌山市立博物館では、毎年、館内の活動では、各種講演会や「市博講座」、「古文書講座」などの講座を数多く開催しています。また館外の活動では、子ども向けの「校区探検」や「出前講座」を行っています。今回、それらを更に拡大して、一般の団体の方を対象とした「博物館 おでかけ歴史講座」を新たに始めます。和歌山市立博物館の学芸員が市内の各地域に出張して出張講座、その地域の歴史や文化を紹介する講座を実施します。実施費用は無料です。ぜひご応募ください。

◇対象:一般の方・各種団体(原則として20名以上でお申し込みください)

◇期間:日曜日を含み、いつでも実施できます(要日曜開館、年末年始12/29-1/3は不可)

◇内容
 市内の各公民館や自治会館等にて、学芸員がスライド映像などを用いて、その地域の歴史や文化をわかりやすく説明します(約1時間程度)。
 講座の具体的な内容や難易度については、協議の上で決定します。



その他、できるだけ要望に沿った形で実施させていただきます。また、和歌山市立博物館所蔵の貴重なビデオ映像(VTS、DVD)などの上映なども、希望によって実施可能です。

◇料金
 ・実施費用は無料です。

◇申し込み
 予約申し込み → 申込書の提出 → 受付完了
電話・電子予約 別途用紙に記入 (日5分含む) (FAX可)

◇お問い合わせ
 詳細については、下記までお問い合わせください。
 和歌山市立博物館(〒640-8222 和歌山市塚本町3-2)
 電話 073-423-0003 FAX 073-432-9040
 e-mail: hals@wakanabe.city.wakayama.lg.jp

博物館おでかけ講座の開始

第16回 全国城跡等石垣整備調査研究会

テーマ
石垣整備における石材をめぐる諸問題

日時
 平成31年 1月24日(木)~26日(土)

会場
 和歌山県民文化会館 小ホール
(和歌山県和歌山市小松原通一丁目(事務所) 和歌山県庁内)

1/24・1/25は一般の参加も参加できます
 入場無料
 事前申込不要

1日目 (1/24) 13:30~16:40

★基調講演 北郷 善一郎
(和歌山県立歴史民俗学館館長)

「石材からみた城郭石垣の構築とその本質的価値」

★報告1 史跡和歌山城跡
 ★経過報告 特別史跡熊手塚跡

2日目 (1/25) 9:00~16:15

★報告2 特別史跡稲佐城跡

★報告3 史跡熊取城跡

★報告4 史跡・塚原城跡

★報告5 文化財石垣保存技術協議会

★経過報告 平成30年7月調査による城址城跡の現状

★パネルディスカッション

3日目 (1/26) 9:00~12:00

★現地見学

主催 文化庁 和歌山市
 共催 文化財石垣保存技術協議会

お問い合わせ 和歌山県和歌山県歴史民俗学館
 〒640-8211 和歌山県和歌山市下町2丁目2番22号
 TEL 073-435-1044 FAX 073-435-1150
 E-mail: wakayamagijyuu@city.wakayama.lg.jp

第16回全国城跡等石垣整備調査研究会 (和歌山城)



加太砲台弾薬・厠の整備・展示公開

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成30年度
	現在の状況	
埋蔵文化財の取扱いに関する取り組み	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 埋蔵文化財包蔵地の状況を和歌山市埋蔵文化財包蔵地所在地図で公表し、遺跡保存についての協議や土木工事の際の手続きを明示し、遺跡の確認調査を実施している。また埋蔵文化財センターにより記録保存のための発掘調査を実施している。今後とも、上記に継続して取り組み、埋蔵文化財包蔵地における届出等の徹底を図るとともに、文化財担当課の指導のもとでの保護を徹底する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

埋蔵文化財の取扱いについては、文化財保護法93・94条に基づく埋蔵文化財発掘の届出・通知:297件、開発に伴う遺跡の確認調査:50件、記録保存のための発掘調査:17件がある。埋蔵文化財の普及啓発としては、発掘調査速報展示(市民ギャラリー):2回実施、発掘調査情報パンフレット1,000部作成と、文化財説明板設置:太田・黒田遺跡周辺13基、文化財マップ:太田・黒田遺跡周辺4,000部を作成した。通常は地下に埋もれて実像がわかりにくい埋蔵文化財について、発掘調査成果の普及啓発等により、地域の歴史に根ざした魅力を発信することにつながった。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	埋蔵文化財(遺跡)は地下にあり実像がわかりにくいいため、現地での案内や遺物の展示等でその時代の生活の様子等がわかるよう普及啓発を進めていく。

状況を示す写真や資料等

和歌山城跡第34次発掘調査 現地説明会資料

平成30年9月22日(土) 午後1時30分～3時
 和歌山市産業交流局 文化次長一室部 文化総務課
 公益財団法人 和歌山文化財センター 和歌山文化財センター



はじめに
 調査地の位置する三の丸は本丸、二の丸を防御するための郭であり、二の丸との間は内堀で、城下町との間は土塁と外堀で囲われていました。現存する絵図(安政二年和歌山城下町絵図)からは藩の公的な施設や家臣の屋敷が建ち並んでいた様子がわかります(第2図)。

1. 調査の概要

- 遺跡名: 和歌山城跡
- 所在地: 和歌山市七番丁25
- 調査期間: 平成29年6月～継続中
- 調査面積: 約5050㎡



第1図 調査地位置図


和歌山城跡第34次発掘調査 現地説明会

和歌山市
埋蔵文化財発掘調査情報
2018

紀ノ川北岸の大規模弥生時代集落～宇田森遺跡第7次発掘調査～

宇田森遺跡は、紀ノ川下流城北岸に位置する弥生時代中期(約2100年前)から後期(約2000年前)を中心とする集落遺跡として知られ、東西400m、南北500mの範囲に広がっています。また、昭和30年代には大塚郡磯神社周辺から後期の中間期跡がみついています。宇田森遺跡が注目されるようになったのは、昭和42(1967)・昭和43(1968)年に和歌山県が行った発掘調査で、弥生時代中期の竪穴住居が7棟とまわって見つかりました。その後の調査により集落の縁辺で、環濠とみられる大溝が確認されたことから、環濠集落であった可能性が想定されています。

和歌山市では昨年までに10回の発掘調査を行い、これまでの調査によって、当時の人々が生活を営んだ様子が明らかになりました。今回は、平成29年度に行った第7次発掘調査の成果を紹介します。


調査地近景(東から) 弥生時代中期前半頃の生活面(東から)

発掘調査情報パンフレット

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	評価対象年度	
	年月日	平成30年度
和歌山市の「歴史的風致維持向上計画」認定	平成30年3月28日	和歌山放送ニュース
6時のわかやま(和歌山市「歴史的風致維持向上計画」認定)	平成30年3月28日	テレビ和歌山
「和歌の浦」整備計画 国認定	平成30年3月30日	読売新聞
3大臣認定 保存へ支援	平成30年4月7日	わかやま新報
あすのWA!(和歌の浦など 歴史的景観維持で観光振興 整備へ)	平成30年4月12日	NHK和歌山
景観、歴史文化遺産を承継	平成30年6月5日	住宅新報
わくわく編集部(和歌の浦)	平成30年8月31日	テレビ和歌山
特集「自転車や徒歩で巡る 絶景の宝庫和歌の浦へ」	平成30年9月29日	リビング和歌山
WTVニュース(和歌山市 歴史まちづくりシンポジウム)	平成30年11月3日	テレビ和歌山
「歴まちカード」近畿11市町で配布スタート	平成30年11月24日	和歌山放送ニュース
歴まちカード配布開始	平成30年11月25日	わかやま新報
じよんのび日本遺産「絶景の宝庫和歌の浦」	平成30年11月25日	TBSテレビ
6時のわかやま(和歌浦の未来を考えよう)	平成30年12月17日	テレビ和歌山
「東京五輪に向け、和歌の浦の魅力を」(たからものプロジェクト)	平成31年1月28日	産経新聞
関西情報ネットten.(Let'sGo!若一調査隊)	平成31年3月6日	読売テレビ
小学生が和歌の浦のPR方法発表	平成31年3月8日	テレビ和歌山
和歌浦ツアー提案 雑賀小6年生が研究発表	平成31年3月10日	わかやま新報

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

和歌山市歴史的風致維持向上計画の認定や計画に基づき実施する事業に関することについて多数報道されている。これらの報道を通して、和歌山市の歴史まちづくりに関する取組、歴史的風致について関心、認識が高まり、普及啓発となっている。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし	

状況を示す写真や資料等

評価軸⑥-1
その他(効果等)

評価対象年度 平成30年度

項目

歴史的風致の情報発信と認識向上

計画に記載している内容

歴史的風致について、市民等に積極的に公開する機会を通じて普及啓発を図る。また、地域の歴史や文化、伝統、価値に関する理解や周知が十分でないこと等から、パンフレットや冊子、ホームページや動画コンテンツ等を作成し、認識の向上を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

平成30年11月3日開催の和歌山市歴史まちづくりシンポジウムで歴史的風致の認知度に関するアンケートを実施。重点区域内の歴史的風致など認知度が高いものもあるが、あまり知られていない歴史的風致も多かった。シンポジウムで各歴史的風致の説明を行い、普及啓発できた。

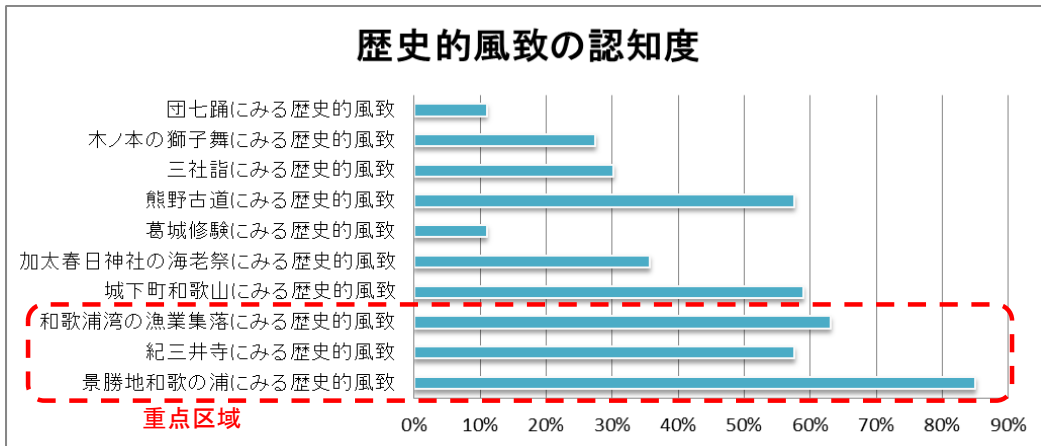
平成30年11月24日より歴史まちづくりカードの配布を開始。平成30年度で3,130枚を配布し、市民及び来訪者に広く歴史的風致をPRすることができた。

進捗状況 ※計画年次との対応

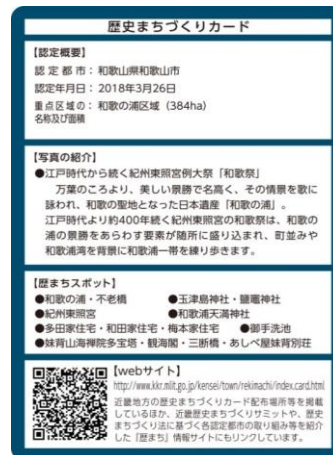
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



歴史まちづくりカード(表面)



歴史まちづくりカード(裏面)

評価対象年度 平成30年度

・法定協議会等におけるコメント

コメントが出された会議等の名称： 和歌山市歴史的風致維持向上計画推進協議会

会議等の開催日時： 平成31年2月15日(金)9時30分から11時30分まで

(コメントの概要)

<事業全体について>

○各事業において、大枠にしか定めることができない部分もあると思うが、10年間の各年度の実施内容と実際に推進した当該年度の実施内容と照らし合わせて進捗状況の評価する必要がある。

○定量的評価においては、単に数値を記載するだけでなく、次年度以降の目標値を設定しておくことが望ましい。

○各整備事業において、整備方針や内容を定める前に、学識経験者等に相談するというプロセスをとることが望ましい。

<個別事業について>

○御手洗池公園や和歌の浦ガイダンス施設など各整備事業において、安全性や快適性を考慮することはもちろんであるが、歴史性をどう創出していくのか、歴史的な立地特性を鑑みて空間デザインを行う必要がある。

○次世代の担い手育成事業において、小学生向けの普及啓発は入口としては非常に重要であるが、その子どもたちが大人に成長した時に担い手として育てているなど把握していくことが望ましい。そのため、継続して担い手を育成していくことについて戦略的に実施しなければならない。

(今後の対応方針)

<事業全体について>

○各事業の10年間の各年度のスケジュールと実際に推進した当該年度の実施内容と照らし合わせて、進捗状況を整理するものとする。

○定量的評価が可能な事業のうち継続的に同様の内容を実施する事業については、目標値を設定するものとする。

○各整備事業の設計段階において、必要に応じて協議会の意見を求めることとする。

○各整備事業においては利用者の安全性や快適性等を考慮することはもちろんであるが、事業箇所の歴史的変遷などの把握に努め、歴史的景観の創出等の空間デザインを検討していく。

<個別事業について>

○次世代の担い手育成事業においては、行政の取組だけでは不十分なため、各地域活動団体等と連携しながら推進するものとする。